

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書 14 章 15~31 節>

①弟子たちに、「あなたがたは私を見る」と言われ続けるイエス様。

先週の箇所が続いて、十字架につけられるイエス様が弟子たちに、「世はもう私を見なくなるが、あなたがたは私を見る」(19a)とまた言われます。その「見る」は「知る、分かる」と同じ意味でした(14:4-9, 17, 19, 20)。「私が生きているので、あなたがたも生きることになる。かの日には、私が父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、私もあなたがたの内にいることが、あなたがたに分かる」(19b-20)とも言われ、弟子たちが「分かる」ことを断言されています。そして、確かに弟子たちは、イエス様が昇天された後も、イエス様が共におられることを確信して生きる者となったのです！ 何が起こったのでしょうか？

②幼児の成長過程とそっくり—イエス様がおられなくても大丈夫！

お母さんにくっついて離れない幼児も、最初はお母さんが見える所で、次には壁に隠れてお母さんが見えなくても、そしてついにお母さんがいなくても友だちと遊ぶことができるようになります。これは誰もが幼児期にたどる当たり前の成長過程ですが、考えてみれば、やはり神様が起こして下さる不思議な出来事だと思います。目には見えない神様を私たちが信じるようになることを、同じ神様が起こされても不思議ではないでしょう。イエス様も、「父(なる神)が弁護者・聖霊を遣わし、すべてのことを教えて下さる」(16, 26)とされているのですから！

③150年前の宣教師たちを支えたもの—その中心に神様の愛がある！

今から約150年前、宣教師たちは、荒海を越えてはるばる日本にやって来ました。どうしてそんなことができたのでしょうか？「あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる」(ヨシユア記1:9)と信じていたからです！ イエス様は、「私を信じる者は、私が行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。私が父のもとへ行くからである」(12)とされました。この「私が行う業」とは、イエス・キリストが十字架にかかって示された愛の業であり、「もっと大きな業」とは、その愛の業によって私たち自身が為し、また私たちの伝道によって他の人も為すように導かれる「神様への立ち帰り(回心)」の業です。イエス様は何度も、「私を愛しているなら」(15, 21, 23, 28)と言われます。イエス様の愛にうたれ人が同じ愛で生きられるのです！ バラもへボンもその愛で生きた人たちです。私たちにも、今、その愛が差し出されているのです！